

## 地域包括ケアの深化・推進のための多職種連携研修会

日時：令和5年10月16日（月）19時00分～20時45分

場所：木更津市民会館 中ホール

参加人数：72名

### ○講演：在宅医療・介護現場における暴力・ハラスメント防止について

講師：法テラス千葉法律事務所 金澤 万里子 弁護士



#### 《概要》

- ・医療・介護現場で働く人々が日常的に暴力・ハラスメントのリスクにさらされる原因として考えられるのは、相手方（加害者）が高齢者や障がい者、認知症の方など、社会的弱者とされる人々で問題にしにくい。自宅内、個室・病室内などで1対1の関係で発生しやすく、周りが気づきにくい。
- ・暴力・ハラスメントの刑事上の問題点
  - \* 殴る・蹴る…暴行罪、傷害罪
  - \* 閉じ込め…監禁罪
  - \* 窓口に怒鳴り込んでくる…威力業務妨害罪
- ・暴力・ハラスメントの民事上の問題点
  - \* 不法行為…加害者に損害賠償請求ができるか？
  - \* 契約解除・サービス停止ができるか？
- ・暴力・ハラスメント対応のポイント
  - \* 受けた被害が暴力・ハラスメント（犯罪）であるという認識を持つ。
  - \* 110番通報を躊躇しない。
  - \* 記録に残す。すぐに上司に報告し、組織として対応する。
  - \* 対応マニュアルを整備し、職員に安心安全な職場を提供する。
  - \* 認知症・障がいのある方は、暴力・ハラスメントをしても良いという考え方は間違いだが、症状に関する知識・理解は必要。

### ○グループワーク（事例検討）

講師：法テラス千葉法律事務所 野口 悠紀音 弁護士

伊藤 琢真 弁護士



## 《概要》

- ・訪問看護中に発生した事例に関して、グループ毎に対応方法について話し合いを行い、全グループが話し合った内容を発表した。
- ・各グループから出た意見（発表内容）
  - \*すぐに警察に通報すると逆上して危ないのではないか？相手の精神状態を確認したい。
  - \*身の危険を感じたらまずは逃げ、安全を確保したら警察に通報する。
  - \*上司を介して通報した方が良い。
  - \*加害者と距離をとる、逃げ道・防御に使えるものがあるか周りの状況を考える。
  - \*警察に相談し、連携する。

## ○アンケート結果（アンケート回答44名・回答率61.1%）

### ①研修会に参加してどうでしたか？

良かった：41名 良くなかった：2名 どちらともいえない：1名

### ②開催方法はどうでしたか？

良かった：38名 良くなかった：1名 どちらとも言えない：5名

### ③研修内容の感想（抜粋）

- ・医療、介護の現場では常にリスクと向き合いながら従事しているため今回弁護士の先生方から法を交えたお話が聞けて、今後の参考になりました。
- ・複雑な思いの中でのいる患者様・ご家族様の事をきちんと理解して接していきたいと改めて思いました。
- ・相手が社会的弱者とされる人々のため、問題化しにくいとのこと、その通りだと思いました。
- ・利用者だけではなく、従事者の心の声も受け入れられて良いのだと救いを感じました。
- ・他の職種の方、立場の違いから考え方や行動が違って来る事がわかった。
- ・契約書の見直しなど、早急に検討する必要があると感じました。

## 【参加者】

医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、栄養士、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会・地域包括支援センター・行政職員等

主催：木更津市在宅医療・介護連携推進協議会

共催：君津木更津医師会第一部会・君津木更津歯科医師会・君津木更津薬剤師薬業会